

ライチ（施設）／作物転換、栽培技術の確立・向上、流通・販売の工夫
畑地かんがい施設を活かして新規品目（ライチ）に挑む
～宮崎県新富町M農園～

経営体の概要

就農時：平成6年
基幹作物：シンビジウム（施設）
経営面積：100a

現在：令和6年
基幹作物：ライチ（施設）
経営面積：90a

土地改良事業による生産基盤（農地、農業水利施設等）の変化

【事業実施前】

- 水源の不足により水田は常習的に干ばつ被害。
畑地ではかんがい施設が無く、土地生産性が低い状態。

【現在】

- 国営一ツ瀬川農業水利事業（昭和47～60年度）等により水源が確保されるとともに、用水施設が整備され、農業用水が安定的に供給。
- 本事業により、老朽化が進行している施設の改修等を行うことで、農業用水の安定供給を維持。



杉安頭首工（一ツ瀬川）



東原調整池

営農改善、経営転換等のポイント

①作物転換

就農時、父親が国営事業等で整備された畑かんを活用してシンビジウム（洋ラン）専業経営をしていたが、シンビジウムの需要減少、また、ライチの食味の良さに感動し宮崎県内の栽培者を増やしたいと思ったことなどから、平成19年に20aでライチ栽培へ作物転換。

②栽培技術の確立・向上

苗木の育成、成園の栽培管理にかん水が不可欠であることから、畑かん用水を活用するとともに、ライチの栽培手法が確立されていないため、試行錯誤しながら安定生産や品質確保等の栽培技術を向上させている。

当初は6月のみの収穫で収穫面積30aであったが、現在では栽培管理の工夫により5月から7月下旬まで収穫時期を分散化し、収穫面積を65aまで拡大。幼木・苗木を25a育成している。

③流通・販売の工夫

ライチはJ Aみやざき、市場その他契約者に出荷。4年程前からふるさと納税の返礼品としており、年々増加傾向にある。

平成29年に県内栽培者と連携し技術向上を図るため、ライチ研究会を立ち上げ、会長となり中心的に活躍している。



事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
関係市町：宮崎県西都市他1市2町
受益面積：2,067ha
予定工期：令和5年～令和14年度
事業目的：用水改良（改修）
主要工事：貯水池（改修）1カ所
頭首工（改修）1カ所
用水路（改修）L=5.8km他

位置図



<問い合わせ先>

九州農政局
農村振興部農地整備課
競争力強化推進係
電話：096-300-6498

（令和6年度調査時点）